

第 22 号

平成 29 年 9 月 28 日(木)

教育情報紙

発行：島根県教育委員会
(教育指導課)

TEL：0852-22-5421

Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

今、子どもたちに求められる力とは…

教育指導課学力育成スタッフ 上席調整監
柿 本 章

今年 4 月に実施された「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」の本県の結果につきまして、次頁以降に結果分析を載せていますのでご覧ください。

過去の「教科に関する調査」や「質問紙調査」に見られた様々な課題につきましては、各先生方や学校全体の取組みにより改善されていることが結果として表れています。

例えば、「算数の勉強は好きだ」「算数の授業の内容がよく分かる」という回答をしている児童の割合、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う」「授業の最後に学習を振り返る活動をよく行っていたと思う」という回答をしている児童・生徒の割合については徐々に増えてきている状況です。

今回は、次期学習指導要領で示されている「カリキュラム・マネジメント」、「『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善」に関する学校質問紙調査の項目についての結果も示しています。県全体としての成果と課題につきましては、詳細を次頁以降に載せていますが、各学校におかれましても分析や対応をお願いします。

これからの変化の激しい社会を生き抜くために、島根の子どもたちに身につけてもらいたい力は、「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題に粘り強く向かっていく力」であり、具体的には論理的思考力、コミュニケーション力、感性・情緒といった「生きる力」を構成する重要な力です。このような力を育てていくためには、各学校において「カリキュラム・マネジメント」を充実させることや「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていかなければなりません。

その一方で、子どもたちに身につけさせたい力を学校だけでなく、保護者と共有し、協力を得ながら日々の教育にあたることがこれからはますます重要になってきます。さらに言えば、だからこそ子どもたち自身にも、将来待ち構えている社会がどのようなものなのかをしっかりと理解させ、日々の学校生活において、今自分自身がしなければならないことは何かということを考えさせることも必要なのではないのでしょうか。様々な場面を使って、保護者や子ども自身に考える機会を設けていただきたいと思います。

今回の「家庭向け」の内容はそのような観点から載せていますので、保護者向けにぜひ活用してください。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果分析

4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果について島根県と全国を比較し、分析しました。詳細は、10月に各教育事務所ごとに開催します小中学校管理職説明会で解説します。

また「平成29年度全国学力・学習状況調査島根県（公立）の結果概要」については、教育指導課HP (<http://www.pref.shimane.lg.jp/kyoikusido/zenkokugakuryoku.html>) に掲載しておりますので、ご覧ください。

この教育情報紙では、学校現場の皆さんに特に意識していただきたいことにしぼって掲載しますので、各校での分析や教育活動の改善に役立てていただければ幸いです。

【質問紙調査の回答状況】

結果の概要（島根県と全国の比較）

- 地域の人材の活用について肯定的回答の数値が高い。教育活動に必要な地域資源（ひと、もの、こと）を効果的に活用して指導計画を作成し、地域と連携・協働した教育活動を展開している学校が多い。
- 授業の「目標（めあて・ねらい）、振り返り」は、各校において意識して取り組まれたことが数値から読み取れる。今後は、児童生徒が主体的に学習に向かったり、学習内容が定着したりできるよう、「目標（めあて・ねらい）、振り返り」の質的な向上や効果的な示し方が求められる。
- 小学校では、「全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した」割合が高い。中学校では、この割合に大きな変化が見られないため、今後、この動きを中学校にも広げていく必要がある。
- △ 小学校算数への関心等を尋ねる項目では、「算数の勉強は好きだ」「算数の授業の内容はよく分かる」と回答する割合が少しずつ上昇してきている。しかし、全国平均と比較して依然として低い状況にある。
- △ 中学校第3学年の家庭学習に大きな課題がある。保護者への働きかけや授業と関連づけた宿題や調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えるなどのより一層の工夫が必要である。

【過去に課題の見られた項目の回答状況・新たに見えてきた課題】

1 目標（めあて・ねらい）を示す取組は定着してきています

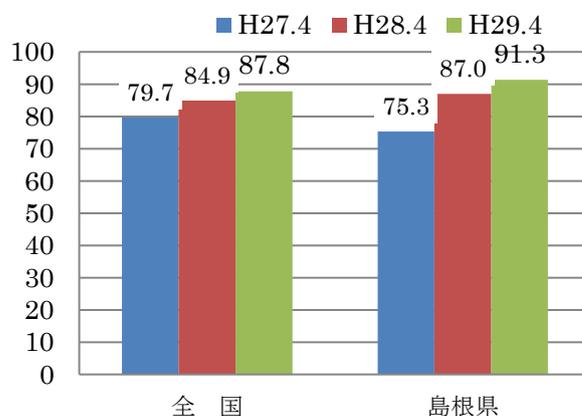
現行の学習指導要領で「各教科等の指導に当たっては、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」と示されています。

各学校において授業改善の重点として授業の中で目標を示す取組が定着してきています。

ここ数年で、小学校、中学校ともに授業の中で目標を示す取組が右図のように伸びてきています。

各学校での日々の授業改善の取組による成果だと感じています。

授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う（中3）



算数の勉強は好きだ（小6）

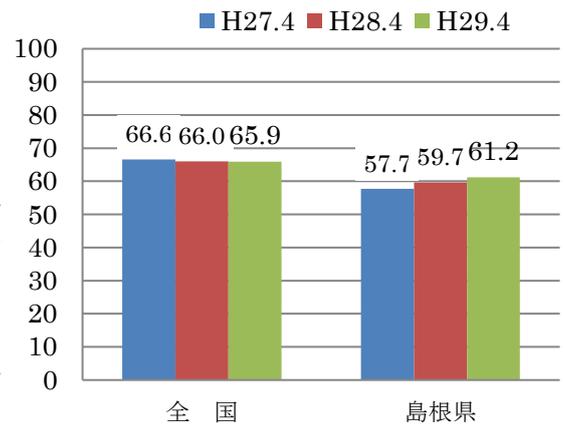
2 算数の勉強が好きな児童が増える取組が一層必要です

依然として算数・数学に課題がある状況が続いています。小学校、中学校ともに国語よりも算数・数学において全国の平均正答率との差が大きい状況です。

県教育委員会では、全教科にわたる授業改善を進めるための切り口として算数を取り上げています。決して単に算数の平均正答率を上昇させることを目的とするものではありません。

算数を取り上げるのは、算数はつまずいたらその先に進みにくい特性があり、さらに改善の成果が測定しやすい教科であることを考慮したものです。「算数の勉強が好きだ」という児童を増やすことが、学力につながるという仮説を立て、このことを検証する試みとして、昨年度から県内8校を算数授業改善推進校に指定し、「子どもの声でつくる算数授業づくり」を進めています。

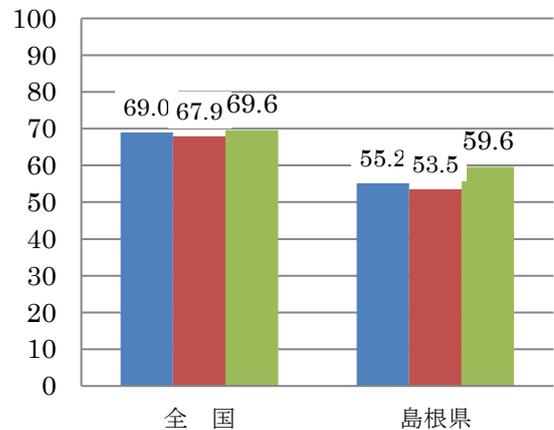
児童質問紙調査から、「算数の勉強が好きだ」という問いに対して肯定的な回答をした割合は、全国と比較して下回っていますが、右図のようにこの3年間で3.5%伸びました。少しずつ算数の勉強が好きな児童の割合は増えつつあります。授業改善の動きを推進校から全県に広げ、すべての学校で一層の授業改善が進むように努めていきたいと考えています。



3 中学校の授業時間以外の学習（家庭学習も含めて）を充実する工夫が必要です

生徒質問紙調査で「学校の授業時間以外に、平日1時間以上勉強している」中学校3年生の割合は、右図のとおり59.6%で、全国と比べると-10.0%でした。全国調査が始まって以来ずっと厳しい状況が続いています。学習の手引きを使って学習の仕方を説明したり、自学ノートを使って家庭学習の習慣化を図ったりと、様々な取組が各中学校で行われていますが、なかなか家庭学習等の充実につながっていません。しかし、「自分で計画を立てて勉強していますか」「家で学校の宿題をしていますか」「家で学校の授業の復習をしていますか」という問いに対しては、肯定的な回答をした生徒の割合は全国を上回り、各中学校の取組によって改善の兆しが見られます。

学校の授業時間以外に、平日1時間以上勉強をしている（中3）



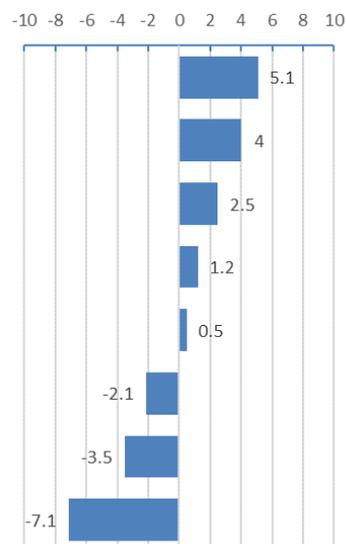
学校質問紙で「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか」という問いに対して、「よく行った」と「どちらかといえば行った」を合わせた割合が、中学校では68.7%（全国比-18.9%）でした。また、「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりして宿題を与えましたか」という問いに対しても、「よく行った」と「どちらかといえば行った」を合わせた割合が、中学校では52.6%（全国比-17.2%）でした。家庭への働きかけや、宿題・課題の与え方についても考え直す必要があるように思います。

4 学校全体で「カリキュラム・マネジメント」の充実や、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善の取組を進める必要があります

全国調査の学校質問紙調査のうち、「カリキュラム・マネジメント」に関する項目と「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の実現に関する項目をピックアップしてみました。

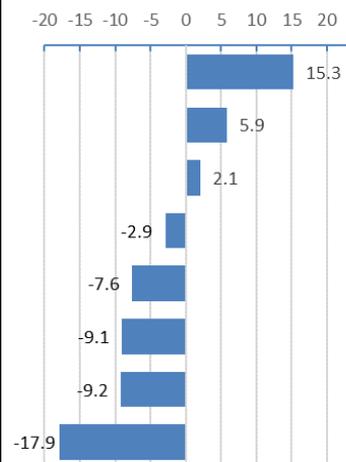
(左の表の番号は、学校質問紙の番号。右のグラフは、肯定的な回答が全国平均より高いものを＋、全国平均より低いものを－で表しています。) 小学校学校質問紙

番号	質問項目【学校質問紙】
59	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか
31	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか
30	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか
27	指導計画について、言語活動に重点を置いて作成していますか
108	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか
26	指導計画について、知識・技能の活用に重点を置いて作成していますか
28	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか
29	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか



中学校学校質問紙

番号	質問項目【学校質問紙】
31	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか
59	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか
30	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか
106	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか
28	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか
26	指導計画について、知識・技能の活用に重点を置いて作成していますか
27	指導計画について、言語活動に重点を置いて作成していますか
29	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか



上の2つの表とグラフは、学校質問紙のうち「カリキュラム・マネジメント」に関する項目だけを拾ったものです。小学校においては、「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか」という問いに対する肯定的な回答が全国を上回っています。昨年度の調査でも、対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために自校の分析結果を活用している小学校が多かったので、この傾向は続いています。中学校では「指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか」という問いに対する肯定的な回答が全国を上回っています。

しかし、小学校、中学校ともに「教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか」という問いに対しては、肯定的な

回答が低い状況にあります。次期学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントの充実が強調されていますが、島根県内の小学校、中学校の課題がこの結果から明らかになっています。各校の状況を改めて確認いただき、来年度以降のカリキュラム・マネジメントの充実に努めていただければと思います。

右の表とグラフは「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の取組状況に関する学校質問紙の項目をまとめたものです。

小学校では「児童は学級やグループでの話し合いなどの活動で相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか」については、全国を上回っています。中学校では「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか」については、全国を上回っています。しかし、小学校、中学校ともに全国平均を下回っている項目が多く見られます。

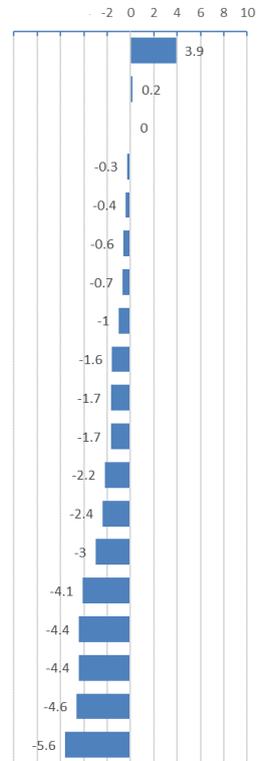
小学校では「授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ・表現するなどの学習を取り入れましたか」が全国と最も開きがありました。

(-5.6%) 中学校では全国との差が9ポイント以上あった項目が、4項目もありました。特に「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか(国語・数学共通)」は-17.2%も開きがありました。

次期学習指導要領でキーワードの一つとなっている「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善に大きな課題があると言わざるを得ません。

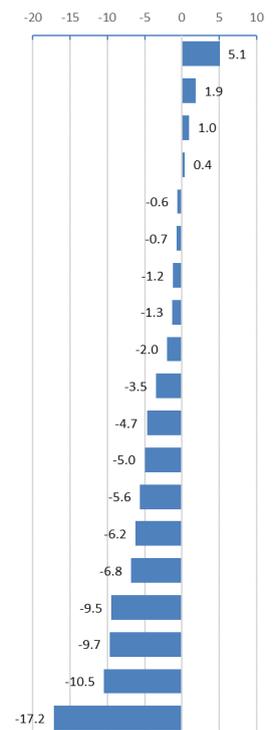
小学校学校質問紙

番号	質問項目【学校質問紙】
16	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか
37	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか
36	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか
51	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか
39	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか
43	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか
18	調査対象学年の児童は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか
47	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、道徳の時間において、児童自らが考え、話し合う指導をしましたか
19	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか
15	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか
44	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか
35	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか
17	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか
42	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか
40	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか
96	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか(国語/算数共通)
32	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
49	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか
41	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



中学校学校質問紙

番号	質問項目【学校質問紙】
40	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか
44	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか
37	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか
39	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか
51	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか
42	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか
17	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか
18	調査対象学年の生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか
36	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか
16	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか
43	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか
47	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、道徳の時間において、生徒自らが考え、話し合う指導をしましたか
35	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか
15	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか
32	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
49	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか
19	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか
41	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか
94	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか(国語/数学共通)



次期学習指導要領の全面実施も近づいてきています。来年度からは、先行実施する教科等もあります。自校の児童生徒に身につけてもらいたい力を育成していくためには、授業改善は避けては通れないものです。自校の全国調査結果を分析し、児童生徒のために授業改善に学校全体として取り組んでいくことが大切です。

その際、県内8校の算数授業改善推進校の公開授業を参考にしたり、各種教育団体の先駆的な取組を参考にしたり、国立教育政策研究所HPから「授業アイデア例」をダウンロードして研究したりすることが、求められます。

【家庭向け】

「全国学力・学習状況調査」の結果分析（島根県と全国の比較から）

平成29年度全国学力・学習状況調査の島根県の結果については、島根県教育委員会教育指導課HP（<http://www.pref.shimane.lg.jp/kyoikusido/zenkokugakuryoku.html>）にも掲載しております。平均正答率や全国平均との比較などについては、そちらをご覧ください。

「どこをどのように見ることが大切なのか分かりにくく、県平均正答率が全国の何番目かということだけに目がいってしまう」という声を聞くことがあります。そこで、Q & Aの形で全国学力・学習状況調査結果の見方についてまとめてみました。グローバル化や情報化等の変化が加速度的となる中で、将来の予測がますます難しくなっている時代を生きる子どもたちに、変化の激しい社会を生き抜く力を身につけさせるために、学校・家庭・社会が何をすべきかを考えるきっかけにさせていただければ幸いです。

Q1. 学習指導要領の改訂で、子どもたちに身につけさせたい力がどんなふうに変わりますか？

A これまで、学力というと「知識・理解」に偏った狭い意味での学力ととらえられることが多かったように思います。もちろん、基礎的・基本的な知識・技能の習得は大切なことですが、そこだけに目が行ってしまくと、十分とは言えません。知識・技能の習得と同時に思考力・判断力・表現力を育成するような教育が必要です。県教育委員会では、「島根の子どもたちに身につけてもらいたい力」とは、「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題に粘り強く向かっていく力」であると考えています。全国学力・学習状況調査で測ることができるのは、この学力の一部で、授業改善や個々の児童生徒への支援に役立つものです。

Q2. 島根県の課題に対して、学校ではどのような取組をしているんですか？

A 島根県教育委員会では、8校の算数授業改善推進校を指定し、「子どもの声でつくる算数授業」の実現に向けて実践研究を行っています。算数に意欲的に取り組む児童が増えることによって、学ぶ意欲の向上につながり、それがいわゆる学力の向上につながると考えています。各学校では、算数だけでなく、すべての教科の授業改善に取り組んでいるところです。また、中学生の家庭学習の充実のために、各中学校が様々な取組を行っていますが、今後、調べたり文章を書いてきたりする宿題を与えるなど、家庭学習の「時間」だけでなく「質」も充実するよう取り組むところです。児童生徒の家庭学習の習慣化には、家庭での声掛けも大きな役割を果たします。メディアとの接し方を改めて見直すことや生活リズムを整えることも大切です。